

HOT! NEWS

A 豪州の名門・クイーンズランド大学に合格

3月に国際教養科を卒業し、9月からは海外の大学に進学するホシマンド有梨亜さん。将来と真剣に向きあった受験活動を振り返りながら、後輩たちに向けてメッセージを送ってくれました。

エージェントと直接交渉して自ら進路を開拓

今年2月、オーストラリアの名門・クイーンズランド大学への合格を果たした国際教養科卒業生のホシマンド有梨亜さん。「オーストラリアは海外からの留学生も多く、自然豊かで住みやすいイメージ。大学では中学生の頃から興味を持っていた心理学を専攻したい」と合格の喜びを語ります。小中学校卒業後の4年間をイランやカナダで過ごしたホシマンドさんは、帰国生として高校2年の時に名古屋国際高校に入学。「さまざまな国籍を持った生徒と先生がいて、国際社会に目を向ける行事や機会も豊富。視野を広げるたくさんのお会いがありました」と2年間の学校生活を振り返ります。受験活動でもその経験が活かされ、海外の進学エージェントと直接連絡を取り合うなど、自らの手で積



▲クイーンズランド大学に合格したホシマンド有梨亜さん(国際教養科卒業生)

極的に進路を開拓。クイーンズランド大学合格に満足することなく、さらなる可能性を求めて、現在はアメリカの大学への進学を目指してチャレンジを続けています。■

期待と不安の間で揺れ動いていた受験活動について、「本当に学びたいことや理想の将来について真剣に考え、自分の内面と向きあう貴重な体験になりました」と話してくれたホシマンドさん。進学エージェントからは、「国際ビジネスを専攻した方が就職には有利」というアドバイスを受け、専攻を再検討したこともありましたが、悩み抜いた末に「自分が本当に学びたいことは心理学」という「答え」を見つけることができたといいます。

一方、受験活動での後悔は、得意な英語を活かして受験できる国内の大学の入試情報を十分に調べていなかったこと。そうした経験から後輩たちには、あらゆる可能性にチャレンジして、できるだけ多くの選択肢を準備してほしいとメッセージを送ります。「海外の大学しか目指していなかった私が、先生や友だちのアドバイス

で国内の大学を受験することになったように、進路目標は常に変化していくものです。進路選択に悩みや迷いは付きものですが、大事なことはそこできかに自分と向き合い、本当にしたいことを見つけれられるか。幅広い選択肢の中から選択できるように、周囲の意見を耳を傾けながら最善の準備をしてください。

世界各国から集まってくる仲間との出会い、クラブ活動や寮生活など大学生活への期待に胸を膨らませ、「クイーンズランド大学であれアメリカの大学であれ、しっかりと学んで良い成績を残したい」と笑顔を見せるホシマンドさん。新生活が始まる9月までは、父親の母国で生活経験のあるイランに渡りペルシア語を勉強することも計画中で、「日本語、英語、ペルシア語の3カ国語をマスターして、国際社会で活躍できる職業に就きたい」と将来の目標を語ってくれました。■

クイーンズランド大学

1909年に設立されたクイーンズランド州最古の大学で、オーストラリアを代表する大学連合「Group of Eight」の1校。国際的な大学提携 Universitas 21研究機構のメンバーでもあり、ノーベル賞受賞者も輩出している。



©Photo by Osamu Okada, via Wikimedia Commons

Feature

昨年4月に本校でスタートした、世界水準の国際教育プログラム『国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)』。

高度なカリキュラムのもと、英語で主体的に学んだI期生が1年間の学習を振り返るとともに、Pre-IBDPを修了したII期生にアドバイスを送るミーティングが開かれました。



▲「将来は国際社会で活躍できる女性になりたい」と横山明子さん(国際教養科3年生)

▲「最終試験で良いスコアを残して、いつか海外の大学に進みたい」と銭智允さん(中高一貫6年生)

▲「IBDPの学びを通して人間的にも成長したい」と石黒恵佑君(国際教養科2年生)

▲「不安な気持ちに負けず、一生懸命に努力したい」と杉本祐乃さん(国際教養科2年生)

国際バカロレア・ディプロマプログラム

I期生によるアドバイザリーミーティングを開催しました

楽しさと難しさ。両面を感じたIBDPの学び

正式導入から1年が経過した、名古屋国際高校の国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)。先駆者として世界水準の国際教育プログラムを体験したI期生と、4月から挑戦をスタートするII期生が集まったミーティングは、IBDPの授業と同様、活発なコミュニケーションが行われました。

I期生を代表して「IBDPの授業はディスカッションやプレゼンテーションが中心で、自分が授業に参加しているという実感が得やすい」と語ってくれた銭智允さん(中高一貫6年生)。その表情からは、英語で主体的に学ぶIBDPの学習スタイルが、生徒たちの向上心を刺激していることが伝わってきます。また、「とにかく時間に追われる毎日でした」と振り返るのは横山明子さん。上級生という「お手本」がないI期生にとっては、IBDPの活動のすべてが手探りの状態。学習内容もPre-IBDPとのギャップが大きく、IBDPの学習ペースを修得するまでに少し時間が必要だったそうです。それでも、「生徒が主体

の『限られた自由がある授業スタイル』が好き。もう座学だけでは満足できません」と笑顔を見せる横山さん。IBDPで音楽を担当する武藤浩司先生も、「一人ひとりが高いモチベーションを持って努力を重ねていました。IBDPの理念である主体的に学ぶ姿勢が、少しずつ身に付いていると感じています」とI期生の成長に目を細めます。

一方、先日Pre-IBDPを修了したばかりのII期生たちは、新たな挑戦に期待という実感が得やすい」と語ってくれた銭智允さん(中高一貫6年生)。その表情からは、英語で主体的に学ぶIBDPの学習スタイルが、生徒たちの向上心を刺激していることが伝わってきます。また、「とにかく時間に追われる毎日でした」と振り返るのは横山明子さん。上級生という「お手本」がないI期生にとっては、IBDPの活動のすべてが手探りの状態。学習内容もPre-IBDPとのギャップが大きく、IBDPの学習ペースを修得するまでに少し時間が必要だったそうです。それでも、「生徒が主体

最も大切なことはタイムマネジメント

「留学経験がなくても授業についていくことはできますか?」「高校のカリキュラムでは学ばない、専門的な言葉を理解できるようになるコツは?」。率直な不安や疑問を投げかけて努力を重ねていました。IBDPの理念である主体的に学ぶ姿勢が、少しずつ身に付いていると感じています」とI期生の成長に目を細めます。

また、「インターネットを通じて、世界各国のIB生」と情報交流ができるフォーラムがあるので、質問をすればいるようなアドバイスが得られます」という横山さんの言葉には、世界共通のカリキュラムで学ぶことの魅力が垣間見えます。そして、I期生が最も伝えたかったことは、タイムマネジメントの大切さです。厳しい言い方になりますが、「時間

が足りない」という言葉は言い訳。自己管理や計画性を身につけることで、時間的にも精神的にもゆとりを持って学ぶことができます」という助言に、II期生たちの表情に安堵が広がります。

11月に行われる最終試験に向けて、「モットーは『今日の自分より、明日の自分』。目標に向かって日々進歩していきたい」(横山さん)、「くじけそうになった時に、その壁を自分がどのように乗り越えていくか、自分自身に期待している」(銭さん)と2年目のIBDPへの抱負を語るI期生。そして、「1人倍の努力を続けて、留学経験がない自分にもIBDPが受講できることを証明したい」(杉本さん)、「自分が学んできたことがIBDPで通用するのか、不安よりも楽しみの方が大きい」(石黒君)と意気込みを見せるII期生。意欲に満ちた生徒たちを頼もしく眺めながら、IBDP担当のアイリス先生は「高いモチベーションとハードワークを維持して、ベストを尽くしてほしい」とエールを送ります。■



▲予定時間を越えて会話が弾んだミーティング。I期生・II期生ともに積極的に発言する姿が印象的でした。

国際バカロレア ディプロマ・プログラム(IBDP)とは

柔軟な知性の育成と国際教育の促進を目的として、1968年に発足した国際バカロレア機構(本部 ジュネーブ)が開展する、16歳~19歳を対象とした国際的な教育プログラム。世界140国に4,420校の認定校があり、日本での認定校数は36校。うち、学校教育法第1条に規定されている学校は13校のみ。



IBDPのカリキュラムにおいて、生徒は6つのグループで構成される学習とEE(Extended Essay: 課題論文)、TOK(Theory of Knowledge: 知識の理論)、CAS(Creativity, Activity, Service: 創造性・活動・奉仕)の3つを履修します。いずれのグループにおいても、学習したことを実社会での出来事や問題と関連付け、実際に活用できるように配慮した学習活動を行うことが重視されます。

B 2015年度 大学合格実績

世界ランキング上位の大学をはじめ、国内のスーパーグローバル大学に多数合格

名古屋国際では、文部科学省スーパーグローバルハイスクール(SGH)アソシエイト活動における人材育成プロジェクトなどを通じて、グローバル社会の課題に対応した国際教育を実践してきました。その成果

として2015年度には、クイーンズランド大学(TH60位)、早稲田大学(SGUタイプA)、上智大学(SGUタイプB)を始めとする国際性を重視した教育研究を行う大学に多数の合格者を出すことができました。■

分類	合格大学	THE*1	SGU*2	学部・学科
海外	クイーンズランド大学	60位	-	Humanities and Social Science
私立	早稲田大学	601-800位	SGU-A	国際教養学部
私立	上智大学	-	SGU-B	外国語学部 英語学科
私立	上智大学	-	SGU-B	文学部
私立	上智大学	-	SGU-B	文学部
私立	法政大学	-	SGU-B	社会学部
私立	関西学院大学	-	SGU-B	国際学部 国際学科
私立	関西学院大学	-	SGU-B	社会学部 社会学科
私立	関西学院大学	-	SGU-B	理工学部
私立	関西学院大学	-	SGU-B	総合政策学部
私立	立命館大学	-	SGU-B	総合心理学部 総合心理学科
私立	立命館大学	-	SGU-B	理工学部 物理学科
私立	立命館アジア太平洋大学	-	SGU-B	アジア太平洋学部
私立	立命館アジア太平洋大学	-	SGU-B	国際経営学部
公立	愛知東立大学	-	-	外国語学部 英米学科
公立	愛知東立大学	-	-	外国語学部 ヨーロッパ学科
公立	愛知東立大学	-	-	外国語学部 国際関係学科
公立	愛知東立芸術大学	-	-	芸術学部
私立	同志社大学	-	-	グローバルコミュニケーション学部 政策学部
私立	同志社大学	-	-	外国語学部 ドイツ学科
私立	南山大学	-	-	理工学部 システム数理解学科
私立	日本大学	-	-	生物資源科学部 獣医学科
私立	日本大学	-	-	生物資源科学部 生命農学科
私立	日本大学	-	-	芸術学部
私立	愛知学院大学	-	-	薬学部
私立	愛知学院大学	-	-	歯学部
私立	愛知学院大学	-	-	歯学部
私立	武蔵野美術大学	-	-	造形学部

*1:THEとはTimes Higher Educationの略
英米系のイギリスのタイムズが発行している高等教育情報誌であり、世界大学ランキングを毎年公表している。評価項目には外国人教員の比率や外国人学生比率が含まれており、大学の国際性を重視した世界ランキングとされている。
*2:SGUとはスーパーグローバル大学の略
海外大学との連携などを通じて、進化した国際化を進めて、世界レベルの教育研究を行う大学を重点的に支援するために2014年(平成26年)に文部科学省が創設した事業の名称。
SGU-A(トップ型):世界大学ランキングのトップ100を誇る実力がある世界レベルの研究を行う大学
SGU-B(グローバル化率型):これまでの実績を基に新たな取り組みに挑戦し、日本のグローバル化を牽引する大学

THE FRONTIER TIMES

Report

国立大学法人
岡山大学アドミッションオフィサー来校

国立大学法人 岡山大学アドミッションオフィサー来校
公立大学の中でもいち早く国際バカロレア・ディプロマプログラムに対応した入試制度を導入した岡山大学から、1月18日にアドミッションオフィサーの佐竹恭介教授とサビナ・マハムド准教授が来校し、大学教育や入試制度について説明会を開きました。本校からは、IBDP生(高校2年生)やPre-IBDP生(高校1年生)22名が出席しました。

を含む全ての学部で行われており、大学入試センター試験は必要ないということでした。これは、IBDP取得者は、グローバルに活躍する素養と高い学力を備えており、グローバル人材を育成する上で要となる人材であるという考えによるものです。このため、IBDP入試による入学者は、「グローバル人材育成特別コース」(副専攻)を希望すれば優先的に履修でき、海外への留学のサポートを受けることができます。■



▲入試概要を説明されるマハムド准教授

岡山大学は、文部科学省スーパーグローバル大学(SGU)の指定を受け、課題解決型学習、アクティブラーニング、異分野融合型教育を通して、グローバル実践者の育成を行っています。また、4学期制によって、留学や長期インターンシップなど多様な学外活動へチャレンジできる環境も整っているということです。

IBDPを活用した入試は、医学部